

提 案 発 表

第4学年 思いや意図をもち、進んで音楽に関わる児童の育成

－児童相互の協働的な学びを通して－

海部郡 海部小学校 尾 崎 亜 紀

1 はじめに

本校海部小学校の4年生の児童は8名であり、3年生とともに複式で音楽科の学習をしている。楽しいことが大好きで、音楽科の学習では歌ったり、楽器を演奏したりすることにとっても前向きで、意欲的に取り組むことができる。そのような児童の姿をさらに伸ばし、これからの生活において、常に音楽に親しみ、生涯において音楽を愛好する心情をもつことができるようにしたいと考える。

本研究では、自分のイメージに合わせて、思いや意図をもち、音楽の仕組みを用いながら音楽づくりをすることを題材として取り上げ、楽しみながら自分の表現を伝えようとする態度を育てていきたいと考えた。児童が自ら考え、判断し、表現したことを相互に認め合う協働的な学びを通し、その中で表現された音楽を教師が価値づけていくことで進んで音楽に関わる児童を育成していきたい。

2 研究の内容

- (1) 互いの音楽を認め合い、学び合う協働的な学びの実現
 - ①「Chrome Music Lab」を使った音楽づくり
 - ②「Key Note」による対話的な学び
- (2) 表現の高まりを価値づける教師の役割
「リズムをつくって楽しもう」の実践

3 研究の実際

- (1) 「つきたい力」を明確にした題材の設定
- (2) 指導の実際
「リズムをつくって楽しもう」の実践
 - ①教師の価値づけによる児童の変容
 - ②自ら考え、判断し表現する活動
- (3) 成果と課題

4 結果の考察

- (1) 「思いや意図」を持つということ
- (2) 「音楽づくり」の学習に取り組んでの成果

5 今後の課題

- (1) 「思いや意図」をもち、言葉や音楽で表現ができる児童を育てるための言語活動の工夫
- (2) 系統的な学びを意識した指導の充実

6 おわりに

児童の思いや意図を言葉や音楽による表現にするためには、一人ひとりの児童の考えや気付きを見取り、認めていくという教師の役割は大きいと感じた。自ら考え、判断し、進んで表現することができる児童を育てていくためには、友達相互に認め合う協働的な学びを繰り返し行っていくことが大切だと思う。これからも、音楽活動を楽しみ、進んで取りくむことができる音楽教育のあり方について考え、しっかりと取り組んでいきたい。